

小樽市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務  
業務終了報告書（令和2年度）

1 実施計画に対する評価等

仕様書5（2）生活支援等サービスのコーディネートに関する業務	
ア 地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起	
今年度の活動概要	<p>地域の資源や課題抽出の手段について道のアドバイザーに助言をいただきながら、各第2層コーディネーターとの面談において状況の把握に努めたが、コロナ禍で地域活動の多くが自粛になりこれまでの課題に加え「人と交流することができない」という課題が加わり、コーディネーター業務に大きな影響があった。</p> <p>当初は地域お役立ち手帳を参考に利用状況の把握をする計画であったが、活動できないという状況下での状況把握が困難であったため、メディアを使用したコーディネーター業務を行う方法を検討し高齢者のメディア実施状況について市内の50代以上を対象にアンケート調査を行った。アンケート調査結果は別紙参照。</p>
評価	A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
評価の根拠	<p>感染対策で活動が制限された状況で当初計画した方法では地域のニーズや資源の状況把握をすることができなかった。</p> <p>今後もこのような状況は続くと考え、方法を変更しメディアも活用していくべく、今年度はアンケート調査という準備段階にとどまった。</p>
次年度の課題・方針等	訪問しての聞き取り調査だけでなく、できる方法を模索しながら、現状での地域課題と地域の資源のマッチング状況について把握する
イ 地縁組織等多様な主体への協力依頼等の働きかけ	

今年度の活動概要	生活支援体制整備事業についての啓蒙からあらためて行う計画で、地域懇談会等を開催し地域の活動団体に協力依頼をしたかったが懇談会の開催は叶わなかった。 生活支援コーディネーターに関する啓蒙のためのチラシを、介護予防教室や、市内クリニック、薬局、地域包括支援センターから市民へ配布したが、直接お話する機会が持てなかったため理解が得られたかを把握することはできていない。
評価	A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
評価の根拠	コーディネーター業務の概要を記載したチラシを配布することができたため、概ね達成できたとする。
次年度の課題・方針等	地域の活動団体に協力していただきたい点、地域がコーディネーターに協力してほしい点を相互にやりとりできる機会を持つことが必要である。
<b>ウ 関係者のネットワーク化</b>	
今年度の活動概要	2層 SC と、個別訪問や情報交換会を通じて顔が見えてお互いに相談しやすい関係づくりを行った。 また、近隣町村 SC との情報交換会にもオンラインで参加し、小樽市以外の関係づくりも行った。
評価	A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
評価の根拠	1層 SC からアンケート調査の協力を依頼したり、2層 SC から介護予防小冊子の記事についての依頼があるなど、相互に協力しあえる関係ができた。
次年度の課題・方針等	感染状況次第では集まって情報交換することができなくなる可能性もあり、相互に連絡をとりあえるツールを活用しさらに協力しあえる関係づくりをしていきたい。
<b>エ 目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一</b>	
今年度の活動概要	地域毎のニーズや課題を市全体で共有していきたいと考えていたが、コロナ禍でこれまでの地域課題に加え、地域の活動ができないというあらたな課題が加わり、凶らずもこれは各地域共通の課題となった。
評価	A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
評価の根拠	コロナ禍における地域課題は共有できた。これまであった地

	域特有の課題について概ね把握できたが解決に向けてより深く理解する必要があるため B とした。
次年度の課題・方針等	コロナ禍において活動ができないという市全体の課題を解決する方法を検討して行くことが必要であるとともに、市が目指す地域の姿を今一度確認をし、意識を統一することが必要と感じる。
<b>オ 生活支援の担い手の養成やサービスの開発</b>	
今年度の活動概要	地域で活動している現行の担い手に対しての研修会を開催し、現行の生活支援サービスに自立支援の視点を加えて介護予防を図りたいと計画していた。 訪問介護連絡協議会からも、移動支援、生活支援の担い手養成の要望があり検討した。
評価	A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
評価の根拠	研修会の開催は感染予防の観点からできなかった。
次年度の課題・方針等	自立支援という視点での担い手の養成講座を開講するための準備メンバーを募集する。必要で継続可能な担い手事業を創設する。
<b>(3) 第1層生活支援体制整備協議会との連携・協働に関する業務</b>	
今年度の活動概要	第1層協議会は年4回程度の実施で、それぞれの情報交換を行う。
評価	A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
評価の根拠	4回中、1回は書面開催、2回は集まって開催することができた。
次年度の課題・方針等	情報交換だけでなく、生活支援整備体制事業をどのように活用していくか、具体的な方法まで話し合える機会を持ちたい。
<b>(4) 第2層生活支援コーディネーター及び第2層生活支援体制整備協議会との連携・協働に関する業務</b>	
今年度の活動概要	2層 SC との面談や情報交換会の開催と、2層協議会へ参加し地域との距離を縮める計画だった。
評価	A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
評価の根拠	2層 SC とは先述のとおり連携することができたが、2層協議会がコロナ禍のため開催されなかった。

次年度の課題・方針等	2層の活動の場に多く参加できることを目指したい。
------------	--------------------------

## 2 国や都道府県等が実施する研修の受講や視察等の概要

- 北海道生活支援コーディネーター養成研修基礎編 対面受講（8月25, 26日）
- 北海道地域福祉学会「COVID-19感染対策下における地域福祉活動の展開」 オンライン受講（8月24日）
- 北海道生活支援コーディネーター養成研修応用編オンライン受講（12月9日）
- 全国社会福祉協議会主催 令和2年度生活支援コーディネーター研究協議会（12月8日）